

平成31年度 県立竜ヶ崎南高等学校自己評価表

目指す 学校像	「すべての教育活動は生徒のために」を基本理念として、一人一人の生徒を大切にしながら、地域や社会の要望に応えられる、誠実で自主的精神に充ちた、創造性豊かな「将来社会に貢献できる人材」を育成する学校。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成 状況
【成果】 ○ 落ち着いた環境の中で学習活動を行うことができている。 ○ 教職員の毎朝の声掛け指導を通して、遅刻の防止、身だしなみの改善について確かな成果が現れている。 ○ キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人を大切にする進路支援体制を整え、生徒の適性に応じた進路指導を行っている。 【課題】 ○ 義務教育段階における基礎知識の定着に課題のある生徒に、いかにして主体的に授業に取り組ませるか。 ○ 自分の適性を知り、将来について熟考し、進路決定に向けて行動させるか。 ○ 部活動の意義を理解させ、積極的に参加できる環境を整え、生徒の自発的な行動の育成につなげていくか。 ○ 生徒の活動や教育成果に対し、保護者や地域住民からの理解を得るか。	生徒一人一人が主体的に学習に取り組むための指導方法の工夫・改善を進め、基礎学力の向上を図る。	① 落ち着いた授業環境を確立し、自主的・主体的に学習に取り組む態度を育む授業の進め方や指導方法・評価方法を研究する。 ② 基礎、基本の充実のため、学び直しの教材を授業に取り入れながら、学力差のある個々の生徒に対応できる授業の在り方を研究する。	A
	キャリア教育の充実と進路先の開拓を推進し、全ての生徒の進路決定を図る。	③ 人生や社会を見つめる態度を養い、生徒一人一人の興味や適性に応じた進路選択を支援し、卒業予定者全員の進路決定を目指す。	A
	基本的生活習慣を身に付けさせる。	④ 制服をきちんと着こなし、身だしなみの大切さを学ばせる。 ・挨拶の励行を徹底させ、社会に通用する人としてのマナーを学ばせる。 ・社会人として信頼されるために、時間を守って生活できる習慣を身に付けさせる。 ・環境美化に努める習慣を身に付けさせる。 ・いじめのない環境を整え、他人を思いやる精神を学ばせる。	A
	生徒会を中心とした学校行事や部活動への参加を奨励し、特別活動の充実を図る。	⑤ 部活動加入率向上を図り、強健な心身と情操の育成を目指す。 ⑥ 生徒による自主的活動の尊重と学校行事のより一層の活性化を図る。	B
	生活体験や社会体験を通して、社会の変化に適切に対応できる力を育成する。	⑦ 学校での環境美化や地域社会での体験活動を奨励し、道徳的実践力の育成を図り、社会で生きる力を育む。	B
	地域への働きかけを充実させ、地域に支えられる学校、地域を支える人材を育てる学校を目指す。	⑧ 保護者との連絡・連携に努め、教育活動への理解、協力を求める。 ⑨ 地域社会や近隣市町村の小中学校との連携に努め、地域になくてはならない学校作りを目指す。	A

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導	授業時間の確保と、学び直しを効果的に行う。		チャイムと同時に授業が始められるよう準備を行う。授業に集中できるよう指導する。①④	A	A	授業の質の向上に向けて今年度は個人での工夫・改善にとどまる。学校あげての取組みも必要。
			教材を工夫し、既習事項の復習が十分にできるようにする。②	A		
	わかりやすい授業と、授業内容の充実に努める。		授業公開・授業研究を通して、授業の質の向上を目指す。②	B		
			社会人として教養となる知識が身に付くような授業を展開する。③	A		
教科	国語	基礎学力の定着を図る。	生徒の実態に合わせて教材・授業内容を工夫し、多様な生徒がそれぞれ向上できるようにする。①	A	A	読字・書字・視覚・聴覚の個人差に対する配慮が必要である。漢字検定受験率を増やす。
			言語の4技能「聞く・話す・読む・書く」それぞれの技能を向上させる。①②③	A		
			N I Eの活用で生きた国語に触れ、学習意欲を向上させる。①③	A		
		進路を実現する指導を行う。	社会生活で必要とされる言語技能を身に付けさせる。③	A		
			進学希望者の実力を養成する個別指導を計画的・継続的に行う。①②③	B		
	地歴・公民	基礎学力の定着・向上に努める。	生徒の実態に即した教材を精選する。①②	A	A	特別教室を活用し、現物資料を取り入れた授業を実施し、より学習内容を深めることが求められる。
			授業の規律を保つ(忘れ物・遅刻・私語等への指導)。④	A		
			中学校までの学習内容の確実な定着を図るとともに、発展的な学習内容を取り入れ大学入試に対応した学力を付ける。②③	B		
		生徒の学習意欲を高める指導を工夫する。	視聴覚教材、グループ学習など、作業的・体験的な学習活動を取り入れ、教科に対する興味関心を引き出し、また、発問を工夫し、生徒自らが考える授業を展開する。①②	A		
			特別教室を活用して、資料集・現物史料などを用いることで学習内容の理解を深めさせる。①②	B		
科目	数学	基礎学力の定着を図る。	学び直すことを目的とした教材を用意し、基礎基本の定着を図る。①②	A	B	進学希望の生徒に対する働きかけが不十分である。生徒自身の進路に対する意識付けと合わせた指導が求められる。
			TTの特性を活かし、少人数授業を積極的に行い、個への働きかけを充実させる。①②	A		
			授業の内容を精選し、わかる授業を心掛ける。①	A		
		進路実現のための授業を行う。	個々に応じた課題等で応用問題に取り組み、大学入試に対応できるようにする。②③	B		
			進学や就職試験問題などへの対策を行う。①③	B		
			自主学習・家庭学習の習慣を身に付けさせる。①③	B		

理 科	自然の事物や現象に見られる 基礎的・基本的な原理や法則 の定着を図る。	授業内容を基礎的・基本的なものに精選し、理解しやすい授業を展開するように努める。 ①	A	A	安全に配慮した題材を 選択し、実験実習を 行いたい。
		基礎学力の定着を目指し、基本問題の反復練習を多く取り入れ、基礎力の定着を図る。 ①	A		
		ノートやプリントなどの提出を徹底させ、学習内容の理解状況を的確に把握する。 ①	A		
	知的好奇心や探求心を喚起 し、自分なりの自然観を持た せる。	視聴覚機器やコンピュータを積極的に活用し、身の回りの生徒が興味関心を持つような題材を用いた実験観察を行うように努める。 ①②	A		
		実験・観察・実習を多く取り入れ、直接見たり触れたりする機会を増やし、理科の楽しさ・不思議さを体感させる。 ①②	B		
		視覚教材や資料集を活用し、写真などで確認させることによって、更に理解を深めさせる。 ①②	A		
保 健 体 育	運動能力の向上を図る。	体力テストに集中させ、記録が伸びるよう努力させる。 ②⑤⑥	B	A	特活との連携（球技会・ 文化祭等の学校行事）に 絡めた単元の実施時期・ 内容の検討をしていき たい。
		授業を大切にし、真剣に取り組めるよう努める。 ②③	A		
		各種の運動を実践させ、生涯スポーツ活動を目指させる授業を展開するよう努める。 ①②	B		
	規則を守れるように努める。	授業開始等の時間を守らせ、全体での集合・準備体操を定着させる。 ④	A		
		授業に相応しい服装・靴の履き方を指導し、徹底を図る。 ④	A		
芸 術	様々な音楽に親しむ。	日本の歌曲のみでなく、外国の歌曲にも親しみ、その楽曲の特徴を捉えて歌唱する。また、生活に関連する音、音楽を認識、分析することで、音楽が人間社会に大きくかかわっていることを感じる活動を取り入れる。 ① ② ⑥	B	A	生徒が音楽を楽しいと 感じる活動をさらに取 り入れる。音楽学の分野 の知識の定着をするた めに、わかりやすく教え る工夫をする。
		ミュージカル、パワ、クラシック音楽等を鑑賞し、その良さを感じ取り、それらに親しむ心を育てる。 ① ⑥	A		
		TVなどで用いられている音楽を取り上げ、音楽を身近に感じ取ることができるようにする。 ② ⑥	B		
	楽器の演奏技術を身に付け、表 現する楽しさや喜びを感じと る。	楽器の演奏に必要な基礎知識の定着を図る。 ①	A		
		三線、ハンドベルなどの基本的演奏法を身に付ける。 ①	A		
		独奏、またはアンサンブルで演奏することを通して、表現する喜びを感じ取ることができるようにする。 ②	A		
家 庭	家庭生活に関する知識と 技術を総合的に習得させる。	生徒の実態を十分に把握し、授業展開において無理のない年間指導計画を策定する。 ②⑦	A	A	座学で知識を学ばせ ると共に実習を通して理 解を深化させ、学習意 欲、生活の充実向上を図 る態度を育てる。
		生徒の興味・関心を引き出し、自ら学習する主体的な心を育成する。 ①⑥	B		
		課題提出を通じて学習理解度を確認し、理解不足箇所の把握に努め、指導に生かす。 ①	A		
		実習や学習を充実させ、技術の向上を図る。 ⑥⑦	A		

	自分及び家族の生活の向上を図る態度を育てる。	家庭生活や学校生活での問題点を把握し、授業や家庭クラブ活動を通じて研究的な活動ができるようにする。⑥⑦	A		
情報	情報活用の実践力を高める。	ワープロソフトを用いて文章を作成する能力を身に付けさせる。③	A	A	実習時間の確保と座学での学習内容の精選。 生徒の実習スキルの差をどう埋めるか。
		表計算ソフトを用いて、基本的な関数機能を理解させる。②③	A		
		プレゼンテーションソフトを用いて、情報を適切に表現する力を身に付けさせる。③	A		
		プログラミングを経験し、その考え方を身に付ける。③	A		
	情報の科学的理解を深める。	コンピュータ等の情報機器の仕組みと使い方を身に付けさせる。③	A		
		情報モラルや著作権について理解させる。②③	A		
		インターネットの基本的な仕組みを理解し、情報を正しく検索・収集する力を身に付けさせる。②③	B		
英語	基礎学力の定着と応用力の育成を目指す。 コミュニケーション能力・態度の育成を図る。	学び直しと振り返りに重点を置いた授業を展開する。授業形態を工夫すると同時に、T・Tやグループ学習、ALTを効果的に利用し、生徒のコミュニケーション能力を高める。①②	B	B	実用英語検定など進路に繋がる外部テストを活用し、生徒のやる気を喚起する。
		教材を吟味するとともに、プリントや学習ノート、ファイル等を適宜活用し、学習効果を高める生徒同士の学び合いを支援する。板書事項を精選し、わかりやすい授業を心掛ける。①②	A		
		外部の検定やコンテスト等を活用し、生徒の学習意欲を喚起する。個々に対応した指導を継続的に行う。①③	B		
		教科内での研修や情報の共有を積極的に行い、授業内容の精選と指導力の向上に努める。①②	A		
教務	教育課程編成に工夫するとともに、授業時数の確保に努める。	カリキュラムマネジメントの視点からより充実した教育課程を編成し、計画的、効果的な学習指導のための学習指導年間計画を作成する。①	A	A	新教育課程の原案作成。 校務支援システムのさらなる有効利用の工夫。 生徒の家庭学習の習慣化への取り組み。
		授業交換を適切に行い授業確保に努める。また、行事の特別編成授業については、偏りのない授業編成に努め、適宜短縮授業等により授業の確保に努める。①②	A		
	授業内容・評価方法を工夫する。	基礎力の定着を図るために、わかりやすい授業の実践や既習事項の学び直しに力を入れる。学習に対する苦手意識を払拭し、学習の習慣を身に付けさせる。自宅学習の習慣化を目指す。①	B		
		公開授業を実施し授業研究を行う。評価方法を工夫し、生徒の主体的な学習活動を促す。①	A		
	本校のPRを積極的に行う。	学校説明会や体験入学を充実させるとともに、ウェブサイト、学校通信や中学校訪問等を通して本校の情報を発信し、PR活動を行う。⑧⑨	A		
図書	図書室の整備に努め、環境を整える。	室内の美化に努めるとともに学習室としての機能を工夫する。利用しやすい環境を整える。②⑦	A	A	利用者数の増加を図る。 広報活動の充実。
		購入希望調査を行い、希望図書の購入と蔵書量の増加に努める。 情報が古くなった本を処分し、購入希望調査に基づいた蔵書を増やす。③⑥⑦	A		
	本に親しむ習慣を身に付けさせる。	新刊だよりを通じてPRに努め、利用率の向上を図る。⑦⑧⑨	B		
		授業やHRで、図書室資料が積極的に活用されるよう働きかける。⑦	B		

特別活動	生徒会活動・学校行事等の活性化を図る。	生徒会役員、生徒会幹事が中心となり、各学級・各専門委員会と連携を図りながら、より良い学校行事を自主的に運営できるように支援する。 ⑥⑦	A	A	部活動に積極的に参加する下地を醸成したい。生徒自らが考えて行動する生徒会活動になるよう支援を継続していきたい。
		各専門委員会の年間活動を検討し委員会活動の活性化に努め、組織の一員としての自覚と責任感を養う。 ⑥⑦	A		
		翔南祭や球技会等の学校行事を通して、多くの生徒に達成感・充実感を体験させられる環境作りに努め、クラスや学校全体としての連帯感を培う。 ⑥⑦	A		
	部活動の活性化を図る。	部活動紹介を充実させるとともに、各部活動の自主的・自発的な活動を支援し、部活動加入率を向上させ、その活性化に努める。 ⑤⑥	B		
	ボランティア活動の推進を図る。	花壇プロジェクトやボランティア活動への積極的な参加を促し生徒の自主性を育み、より多くの生徒が充実した体験ができるよう努める。 ⑥⑦⑨	A		
生徒支援	規範意識と基本的生活習慣を身に付けさせる。	服装容儀指導や段階的指導・遅刻指導・登校時の一斉指導を実施して、規範意識や基本的生活習慣の確立を図る。④	A	A	日頃からのきめ細やかな指導が定着している。引き続き、指導体制を継続するとともに、生徒に寄り添った指導をより一層推進していき、自己指導能力を育成していきたい。
		パブリックとプライベートの区別ができる生徒の育成に努める。④	A		
		校内巡視をきめ細かく行い、問題行動の未然防止に努める。⑧	B		
	自他の生命を尊重し安全に生活する態度を養う。	生活安全講話および交通安全講話を実施し、自他の生命尊重を意識させる。⑦⑧	B		
		自転車点検・バイク実技講習会を実施することで安全運転の心構えや技術を養う。⑦⑧	A		
		薬物乱用防止講話や学年集会などで禁煙教育を行い、喫煙防止に努める。⑦⑧	A		
	学校・保護者・地域との連携強化に努める。	P T A役員・生徒指導委員会の活動の活性化を図り、祭礼巡視、乗車指導、朝の声かけ運動等の行事に職員と連携して活動する。⑦⑧	A		
進路支援	キャリア教育の視点から進路指導を進める。	自分や社会を見つめ、長期的な視点から進路を考える態度を育成する。③	A	A	3年間を見据えた進路指導を計画し、適切な時期に効果的な進路行事を行っていきたい。
		学習と進路との結びつきを明確に捉えられるよう支援する。③	A		
		体験型学習の機会と事前事後指導を通して、生徒が自分の進路のイメージをはっきり描き、自分の課題を認識し、具体的な目標を設定できるよう支援する。②③⑦⑧	A		
	生徒の進路希望100%の実現を目指す。	基礎学力の育成・定着を支援するとともに、資格取得を奨励する。①②③⑧	B		
		面接指導・作文指導を含め、広くコミュニケーション能力の育成を支援する。②④	A		
		きめ細かく求人開拓に努める。③⑧	B		
		新しく変わる大学入試制度について情報収集と提供を行う。③⑥⑧	A		

保健 厚生	健康で安全な学習環境の整備に努める。	施設・設備等の安全点検や環境衛生検査を定期的に行い、安全教育を推進する。⑦	B	B	生徒の状況を考察し、より具体的な方策を立て取り組みたい。			
		大掃除等を通し学習環境の整備と環境美化意識を高める。また、日々の清掃活動においても重点をおいて取り組めるよう努める。④⑦⑨	B					
		避難訓練等を通じ自己危機管理能力を身に付け、非常時に適切な行動が取れるようにする。⑦⑧⑨	A					
	健康教育を推進し、心身共に健康に生きる知識と態度を身に付けさせる。	日常の健康観察や健康診断を通して心身の健康状態の把握に努め、適切な保健指導・健康相談活動を推進する。④⑧	A					
		感染症の流行状況把握のためにも、欠席の連絡を必ず入れるよう呼びかける。③④⑦⑧	B					
		スクールカウンセラーと積極的に情報交換を行い、必要に応じてSSWや関係機関連携を図りながら生徒の心のケアに努める。③④⑧⑨ 必要に応じて専門家による性に関する講演等を実施する。④						
渉 外	学校・保護者・地域との連携強化に努める。	案内文書等を工夫し、行事に親しみを持たせる。⑧	A	A	校外研修の内容をもう少し精査すべきではないかと考えている。			
		案内文書が確実に保護者の手に渡るよう工夫し、徹底する。（郵送、ホームページ）⑧	A					
		総会や各種行事への保護者の参加率を高め、内容の充実を目指す。⑧	A					
		P T A役員・生徒指導委員会の活動の活性化を図り、祭礼巡視、乗車指導、朝の声かけ運動等の行事に職員と連携して活動する。⑧	A					
	P T A事業の充実を図る。	広報誌「くすの木」を年2回発行し、学校や生徒の様子を知らせ、情報提供に努める。⑧	A					
		校外研修の内容を検討し、参加を積極的に呼びかける。⑧	B					
		P T A評議員会の円滑で効率的な運営を図る。P T A総会の参加率を向上させる。⑧	A					
	1 学 年	ルールを守る。	基本的生活習慣を身に付けさせる。④⑧			A	A	進路目標を定め、学力・成績向上への意識の育成
			服装容姿指導・一斉指導を通して制服をきちんと着る習慣を身に付けさせる。④⑧			A		
進路に向けた目標を設定し、正しい判断力に基づいた自己管理能力を身に付けさせる。④⑧			B					
基礎学力の向上に努める。		生徒の実態に応じた授業を行うように努める。①	A					
		授業を受ける態度が適切であるよう指導する。①④	A					
		英語検定・漢字検定等の資格取得を奨励し、挑戦者には課外等で指導する。③	B					
豊かな心を育む。		部活動や学校行事に積極的に参加させ、感動体験を通し、自主性・創造性を育む。⑤⑥	B					
		清掃を徹底するとともにボランティア活動への参加を促し、勤労や奉仕の心を育む。②④⑦	A					

		日々の生活のなかで意識的に関わることで、好ましい人間関係が築けるよう援助する。	⑥	A		
2 学 年	基本的生活習慣の確立を図る。	遅刻・欠席指導の徹底を図るべく、家庭との連絡も密にする。	④⑧	A	A	来年度最終学年を迎えるため、生徒が進路について自身と向き合い、適性を見極め、自己肯定感を高められるよう指導を続ける。
		服装容儀指導を中心に、場に応じた制服の着こなしをする習慣を身に付けさせる。	④⑧	A		
		正しい言葉遣い、聞く姿勢、挨拶がしっかりできるよう指導する。	④⑧	B		
	基礎学力の向上に努める。	生徒の実態に応じた授業を行い、個々の能力の確実な進歩を図り、HR活動や総合の時間で計画的に基礎学力の向上を図る。	①②③	A		
		目標をもって前向きな授業を受ける態度を育成する。	①④	B		
		就職及び進学希望者に対し模擬試験を実施し進路決定に必要な学力を身に付けさせる。	②③	A		
	豊かな心を育む。	自己管理能力を高めるとともに、学校行事に積極的に参加させ、様々な経験を通して自主性・創造性を育む。	③⑤⑥	A		
		清掃を徹底して行うことで、勤労や奉仕の心を育む。	②④⑦	B		
		HR活動を通じて好ましい人間関係が築けるよう援助する。	②⑥	A		
		インターシップや講演会等を通して、社会人として求められる資質を身に付けさせる。	③④⑦	A		
3 学 年	基本的生活習慣の確立を図る。	毎日の服装容儀指導を通し、身だしなみを整える自己管理能力を身に付けさせる。	④	A	A	教員間の共通理解の下きめの細かい指導が定着している。生徒に寄り添った指導を徹底して、アイデンティを育成していく。
		場に応じた正しい言葉遣い、挨拶が身に付くよう指導する。	④	A		
		家庭と連携し、基本的な生活習慣や規則正しい生活のリズムを身に付けさせる。	④⑧	A		
	基礎学力の向上と進路実現を推進する。	生徒の実態に応じた授業を通して、生徒のコミュニケーション能力、基礎学力を高める。	①②③	A		
		積極的な資格取得（英語・漢字検定等）に向け、努力させる。	②③	B		
		定期的な個人面談（年間4回）、LHRや総合的な学習の時間、進路説明会等を通して進路意識の高揚を図り、一人一人のニーズに対応した進路先の希望を実現する。	②③	A		
	豊かな心を育む。	家庭との連絡・調整を密にし、生徒・保護者と更なる連携を図る。	⑧	A		
		部活動、学校行事、学年行事等を通して、素晴らしい経験を積み、自主性・創造性・協調性を育む。	⑤⑥⑦⑨	B		
		清掃を徹底して行うことで勤労や奉仕の心を育む。	④⑦	A		

評価の判定基準 A…大変よくできている B…良くできている C…やや不十分 D…不十分